

江原朗著

「医師の過重労働」

## 勤務医の過酷な現場紹介

病院勤務医として小児科に20年近く従事した医師である江原朗さんが、自らの体験などを基に、過酷な医療現場の実態を明らかにした本「医師の過重労働」(勁草書房・2625円)を出した。

勤務医は日中勤務に加え、休日・夜間の救急外来も担う。救急外来の夜間当直医の場合、月に5回以上の割合で連続40時間近い長時間勤務をこなす。どの程度睡眠を確保しているのか、疲弊した勤務医が医療事故を起こす危険はないのか、といった具体的分析はこれまでほとんどなされてこなかった。

一方、小児の夜間受診のうち、入院を要する事例は数%にすぎない。昼間に受診するより夜間の救急外来は「待ち時間が短いから」という、いわゆるコンビニ受診が横行しているという。こうした一部住民の身勝手な行動が、地域医療を支える医師を無駄に疲弊させ、医療の崩壊を来す要因の一つになっているのではないかと分析している。

地域の医療を守るためには、住民自らが現存する医療資源をどうしたら「枯渇」させないかを真剣に考えるべき時かもしれない。

